

# 令和4年度 第4回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年10月7日(金) 18:30~19:30

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之・以登田 毅・佐野 英和・藤浦 清美・前馬 晋策・寺田 洋子・橋爪 恵子  
谷口 浩之・河合 隆之

欠席委員:木下 さひ子・武友 加代子 (敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美・教頭 紅林 陽子

## 1. 校長より挨拶

昨日あたりから急に冷えてきた。しかし、暑い日もあり、体調管理が大人でも難しい。そのような中、児童たちは比較的元気。先日、6年2組を閉鎖したが、今日から期間も終わり登校している。

## 2. 学校の様子 (2学期始まってから)

- ・ 8月25日 始業式
- ・ 9月1日~ 教育実習生2名受け入れ
- ・ 9月7日 風水害避難訓練…山田川の水位が避難の基準となっている。
- ・ 9月8日 非行防止教室(5年)…池田警察による授業
- ・ 9月8日 放課後学習広場開始(毎週木曜)…学力調査の問題を解くなど、希望制の指導教室
- ・ 9月20日 体育指導改善 実践的な研修
- ・ 9月22日 「足はやチャレンジ」宣言
- ・ 9月22日 防災教室(4年)…国土交通省近畿整備室による。備蓄などに関わる
- ・ 9月27日, 28日  
修学旅行(6年)…初日は天候不良もあったが、無事に実施
- ・ 9月28日 給食試食会…主に1~3年生の保護者が参加 栄養教諭が給食について説明
- ・ 9月30日 「メンター・メンティ」研修…採用から5年目まで(初任期)の教員対象に実施  
テーマは「運動会に向けて」
- ・ 10月1日 足はやチャレンジ月間
- ・ 10月5日 セーフティパトロール(2学期初めて)
- ・ 10月7日 芦森工業出前授業(3年)

委員:非行防止教室が摂津警察ではなく池田警察実施なのはなぜ?

校長:その年度によって、所管が異なる。昨年は豊中警察だった。

委員:サポートセンターの管轄の関係で、必ずしも摂津警察ではない。

藤浦:放課後学習広場は全校生対象か?

校長:4,5年生対象で実施している。

委員:全国学力・学習状況調査の対策か?

校長：そういう意味合いではない。府作成などの教材はあるものの、それを使って児童が自主的に一人で取り組むのは難しい。環境を作って取り組ませる、というのが目的である。

委員：どれぐらいの児童が参加しているのか

校長：登録している児童は4年生が約8割。5年生も半数以上、参加している。

## 2. 足はやチャレンジ

校長：運動会は大きなイベント。一般的に言うと、一か月前から練習などの取組みを進めていく学校が多く、運動会その日だけをターゲットとした取組みになりがち。運動会を通してもっと何か取り組めることがあるのではないか、と考えている。

運動会はもちろん運動することがメインになる。運動するには心身が健康でないとできない。そこで、健康につながる3つの習慣（「生活習慣」「食習慣」「運動習慣」）を見直す取組みを行おう、と考えた。以前、5年生で足はやダンスに取り組んでいたが、それを全校生に活動を広げて取り組む。子どもたちは少しでも足が速くなるために頑張ろうとする。続けて取り組むことで成果を感じ、継続することの大切さを感じて欲しい。取り組む内容・目標は自分で設定するものもある。頑張ったことを視覚的に「見える化」するために、チャレンジカードを活用し、ポイントに応じたシールを渡す。そのシール一枚一枚を食べ物の形をした台紙に貼る。全校生で虹を作っていく、想定では運動会当日に虹が完成する予定。楽しみながら健康づくり、健康習慣づくりに取り組んでいる。

9月22日（木）の児童集会で、児童に動画を使って取組み内容を伝えた。

=OP動画 視聴=

この動画の後に児童会が「みんなでがんばろう！」というメッセージを発信した。同じ日に3、4年生対象に『足が速くなるダンス』のレクチャーもしていただいた。

目標は①早寝 ②朝ごはん ③運動 ④マイチャレンジ（自分なりの目標） ⑤思いやりチャレンジ（お手伝いなど）の5つ。⑤については毎日人によって違うので、シールをあげるときは教職員が何をしたか聞いて頑張りを認めている。

=取組みの様子の動画 視聴=

シールは担任の先生に限らず、どの先生からでももらうことができる。校長室にも連日シールをもらいに来る児童がたくさんいる。思いやりチャレンジでは「洗濯物をたたんだ」「弟の世話をした」など、様々な報告をしてくれる。取組み状況は自己申告なのだが、子どもは正直で取り組めなかったところには〇をつけない。明日もがんばろう、と楽しみながら取り組んでいる。

「運動会＝練習に打ち込む」、そして「運動会で終わり」ではなく、持続可能な取組みに発展させたいと考え、足はやチャレンジに取り組んでいる。足はやチャレンジについてご意見いただきたい。

委員 これは千里丘小学校特有の取組みか？

校長 摂津市では唯一。日本ストリートダンススタジオ協会と国立循環器病研究センターと協働し、アドバイスをいただきながら進めている。

委員 シールというアイデアは先生方から？

校長 「子どもたちはシールが好き」ということはお伝えした。一つひとつ話し合いを通して、内容を形作ってきた。どこかで行われていた取組みを持ってきたわけではない。

委員 私もやりたくなかった。自己肯定感も上がると思う。

委員 楽しんでできる、というのが魅力的。シールをどの先生にもらえる、というのは USJ（どのスタッフに声をかけてもシールをもらえる）のようだ。

ビフォア・アフターが分かると意欲が上がる。取組みを始める前のタイムはとっているのか？

校長 体育の時間に測定している。運動会の時には今より速くなっている、という想定だ。

委員 自分がどれだけ速くなったかが大事だと思う。“一位を取る”ことも一つの目標にはなると思うが、“一位”という尺度以外のものがあるのがいい。

委員 先生にも余裕がないといけないと思うのだが、日頃から忙しいのに大変だな、と思う。

学校は「勉強・学習」に偏りがちだが、幅広い教育の取組みになっていて、いいと思った。

委員 カードは学校が作ったのか？

校長 我々の意見をもとにしながら、デザインなどの提案や印刷をしていただいた。

委員 がんばりカードのチェック欄が“のり付け”となっているが。

校長 1週間目、2週目と、どんどんシートを重ねていく予定。

委員 足が速くなるダンスは、かつて味舌小学校でも取り組んでいた。ダンスのインストラクターが子どもたちを上手に乗せてくれるので、楽しく取り組める。ダンスの足が速くなる要素は、腕を振る、足を挙げるなど。一生懸命取り組んだら、多くの児童は足が速くなる。少なくともフォームが良くなる。日本ストリートダンススタジオ協会は、足が速くなるダンスだけでなく、認知症予防のダンスなど、色々な観点からダンスを作成している。今回は国立循環器病研究センターとコラボ企画。元々の発想は、“子どもの時から減塩を意識して生活をするすることで、高血圧などの生活習慣病を防ぎ、健康への意識を育てよう”というもの。出汁をとることで減塩につながる、という内容をベースに進めたが、子ども目線でいうとあまり面白くない。コラボ企画の話が挙がった時に会議に参加させてもらったが、その際に「せっかくだから運動会に向けて取組みを進めてはどうか」と話をした。“足が速くなる”ことだけに焦点を絞るのではなく、生活習慣やお手伝い・思いやりを含めた取組みにすることで、運動嫌いな子も自ら取り組めるような内容にした。

先程、先生の負担を懸念する声があったが、先生方はこの時期めちゃくちゃ忙しい。ただ、子どもが一生懸命取り組んでいる様子をサポートしたいのは全教員の想いだろう。その負担を担任が全て背負い込むのではなく、学校の先生全体で盛り上げて進めているのが良い。また、ともすればシールのご褒美が競争になってしまうこともあるが、個人で競うのではなく、みんなでシールを貯めていく仕組みにしているのが良い。“みんなで”貢献して“みんなで”健康になる意識付けだ。

校長 取り組んでみると、児童たちがお手伝いをすごくやっていることに驚いた。昨日も、2年生の児童が「お母さんとハンバーグ作った」と話していた。改めて生活を見直すきっかけとなった。

委員 そうやって見直してやることで自己肯定感などにつながっていく。そして自己肯定感が上がることで、日々の授業への取組み方にもつながっていく。

委員 記憶をたどると、自分自身が子どものとき運動会が嫌いだった。体の小ささや、足の速さなどで負けることが多かった。ただ、お祭りは好きで運動会をそれなりに楽しんでいた。自身の教員時代は、運動会で学年づくり、集団づくりをしよう、などの目標を立てていた。今回の取組みは、それに通じるベースがあったからこそその発想だと思う。ダンスや競技の見栄えばかりを追えば追えば、叱ることが多くなってしまふ。全体を見ながらどう進めていくかが大切。面白い取組みだと思う。

運動会のダンス指導に当たって先生は毎時間目標を立てているだろうが、毎時間評価をしてやるといい。1分でも30秒でも「今日はどうやったかな?」と聞いてやる。このような評価のあり方は他の教科にもつながっていく。評価は「できた」「できなかった」だけではない。次につながるための評価として考えていって欲しい。自分たちで考えた運動会だ、という実感がわくと思う。

委員 会議室前の壁面に掲示している虹の絵が、最後の完成形なのだろうか。

校長 運動会まではそれぞれの学年ごとに色を分けてシールを貼っていくのだが、当日の頑張りで埋まる部分も設けている。開会式で現状を見せ、当日は「一生懸命演技した」「力いっぱい走った」「応援した」など、自分なりに頑張ったと思うことがあればシールを貼っていき、最後に虹を完成させたい、と考えている。児童会からの発案で、最後虹をくぐって帰っていくことになっている。

委員 よく考えられている。

委員 万が一埋まらなかった時の為に、教員も取り組んでもいいかも。

校長 当日足らなかったら保護者も動員しようと思う。

委員 楽しい取り組みだ。

委員 地域の人が子どものがんばりを聞いてシールをあげる、というのも良いと思う。先生の負担軽減にもなる。味舌小学校では九九を地域の方に聞いてもらう、という取り組みをしていたが、地域に広がっていくと面白い。

校長 その時はみなさんにオファーさせていただく。

今まではこの時期「運動会」一色で、行き渋りが増える時期。毎日の練習が辛い児童、過敏でダンスの音楽が不快に感じる児童もいる。そんな児童も自分なりに目標を立てて参画できる1か月にしたい。今回1か月取り組みを続けることで子どもたちがどう変わっていくのか楽しみである。

委員 足が速くなるだけでなく健康になる、というのがいい。生活習慣を正すことで免疫力も高まるし、おまけに心の健康まで。すばらしい。

校長 ご家庭でもご協力を頂いているところだ。ぜひ虹を見に来ていただけたらと思う。

### 3. 学校教育自己診断

校長 11月末に学校教育自己診断に取る予定。

昨年度の学校協議会にて“学校で取り組んでいる内容について問うべき”というご意見をいただいたことを受けて、足はやチャレンジを意識した質問項目を設けた。また、楽しいか、楽しくないかという聞き方はやめ、具体的な問いにしている。問い方など、どうだろうか。

児童向けの質問項目「睡眠時間は足りていますか」、保護者向けには「睡眠時間を充分とっている(8時間以上)」の問い方など。改善すべき問いがあればご意見いただきたい。

委員 実態調査、意識調査と違って学校教育自己診断なので、学校教育の成果を問うべき。学校教育の成果として意識がアップしていると思うところは残しておいたらいのでは。ただ、意識、実態を問うだけでは意味がない。単に意識だけを聞いているところは表現を変えるなどして必要がある。診断と実態調査が混在している学校が多いので、注意が必要。

校長 11月末からアンケートを取り、回答が集まり次第、集計、評価していきたいと考えている。

去年はGoogleフォームを活用したが、逆に回収率が落ちた。紙ベースだと98%あった回収率が、Webだと80%に落ちてしまった。便利さがあるのかと思ったのだが、他校でもその現象はあるら

しい。回収の方式も含め、どうしようかと思っている。

委員 紙ベースにしても、回収の仕方によって回収率は変わってくる。名前入りの封筒で配付すると回収率は上がるし、紙ベースの方が保護者も回答に慣れていると思う。ただ、Web でも回答方法に慣れていけばできるのではないだろうか。参観の感想などの簡単なアンケートを頻繁にして、慣れてもらえればできるようになると思う。

集計は、Web 回答の方が断然早い。集計を早くやって分析する時間を多くとることが大切。

できたら Google フォームなどの活用を進めていった方がいいと思う。

校長 今ご意見いただいた点を検討し、アンケートを取っていきたい。

#### 4. その他

委員 質問がある。昨年度の学校協議会の最終回、学校協議会の委員の皆さんから「学校運営に関わって活発な意見が出てよかった」という声が上がっていた。みなさんの参画する意識を高めるためにもコミュニティ・スクールを進めていきたい、という話が校長から出ていた。この学校で開催されている学校協議会はとても有意義だと思っている。

聞くところによると、摂津市としてコミュニティ・スクールを推し進めていく方針を示している中、第三中学校がモデル校になったとのこと。より開かれた学校づくりが進み、より主体的に学校の運営にいろいろな人が参画するのが大切かと思う。ただ、教育委員会の学校教育課のHPを見ても何も発信がなく、進捗状況が分からない。校長会などで何かお聞きではないか。

校長 昨年度、モデル校を希望したが、第三中学校がモデル校になった。第1回目が昨日（10月6日）に実施された。今年度の学校経営計画の説明をして、承認を頂いた、と聞いている。下半期の10月になって今年度の計画に対して出た意見をどう反映させるのか、校長会の中でも疑問が出ている。市教委はモデル校を見ながら広げていく、としている。

教頭 昨日行われた教頭会の中で、6名の方を委員として行った、とお聞きしている。なかなか意見が活発に出る状況ではなく、進め方が難しかった、という話をされていた。

委員 千里丘小学校の学校協議会では、学校運営の中身の話をし、活発に意見が交わされる中で自由に発言させて頂いている。それをまた学校運営に反映させてもらっているところでもある。この学校協議会をこのまま進めて行ってほしいと願う。

校長 議事録を職員に配付している。職員の気づきになったり励みになったりしており、学校協議会の大切さを痛感している。校長自身も学校内部にいたので、外部から見るとどうなのだろうか、ということを示していただく機会になっている。私自身、続けていきたいと考えている。

委員 6年前に日本のPTA大会が兵庫県であった際、コミュニティ・スクールに関する講演を聞いた。地域力を学校に取り入れて一緒にやっという印象を受けた。地域の強みを学校は活用してほしい。学校運営協議会になっていくためには、少なくとも学校協議会で校長先生が話している時間が長いうちは難しい。今、千里丘小学校で行われているような、我々委員が活発に意見を交わす時間がメインになるような会であってほしい。学校発信がメインでなく地域の方が意見をたくさん述べる会にしていかないと、学校運営協議会にはならないと思う。

校長 そのような会になるよう、努力していく。

## 5. 次回日程

次回は、12月16日（金） 18：30～